

箱根屋沢（西丹沢）

計画書整理 No.

期 間：2022年10月 9日（日）

種 別：会山行

山 域：箱根屋沢（西丹沢）

参 加 者：河本嘉照、奥田幹展

コースタイム：7:00 箱根橋 13:30 箱根屋沢の頭 15:00 箱根橋

記録：河本

入渓口は箱根橋の下、左側から容易に入れる。堰堤を乗越し、しばらく歩くとすぐにF1が現れる。F1は簡単という記録を良く目にするが、私はそうは感じなかった。残置のハーケンもよく見れば程良い間隔で打たれているのだが、どれも怪しく抜けかけているものもあった。それと岩が非常に脆く、セカンドの奥田は巨大なラックを起こし、それを自分の胸に直撃させていた。出だしから大当たりである。

F2からF6は特筆すべき事は無く、慣れたパーティーならロープを出さなくてもクリアできるのではないだろうか。ただやはり岩が脆いので、ラックは要注意である。



F1は簡単ではない



F7は手強い

さて F7 であるがここはお助けロープがかかっている。出だしのスタンスが乏しく、アブミをかけてスタートしたが、見えているお助けロープの下までがなかなか手強い。A0で強引に乗越してやろうと思ったのだが、肝心の支点がかなりプアー。荷重をかけたら絶対に抜け落ちる状態だった為、作戦変更。木が生えている所まで上がり、そこに支点をとりトラバース気味に上がった。しかし、その木も適当なものが見当たらず、とりあえず小枝を束ねて気休め程度にプロテクションとした。要は気休めである。



それなりに時間がかかってしまったが、順調に F7 を越え、この日の最大の目的であった F8~F9 エリアへ到着。実はこれが自身、初めての人工登攀であったが、アブミセクションは強固なハーケンが連打されていて、思いの外安心してアブミに体重を預ける事ができた。ただアブミに乗っている時は良いのだが、最後は倒れかかった、下向きに成長している木に移らなければならず、ここはかなりの緊張を強いられた。金井代表の話によると、この木は 20 年以上前にも存在し、その当時から頼りない存在であったとの事。私は事前に情報を得ていたが、この木がなかったらと思うとゾットする。何時までも元気に成長し続けて頂きたいものである。

F8 は支点がしっかりしていた

続く F9 であるが、こちらもアブミセクションとのこと。高度感のある F8 を越えているので、こちらはあまり存在感がない。相方は指を骨折したと訴えてきたが、全くその様子が見られなかったので、遡行を継続。難なくこちらはクリアできた。F9 より先はⅢ~Ⅲ+の滝がいくつか続いたが、ロープなしで問題なかった。沢が涸れてきた辺で、見えていた尾根につめ遡行終了とした。尾根から駐車場までは顕著な踏み跡があり迷う事はなかった。

感想

箱根屋沢と隣の悪沢を余裕を持って遡行できれば、ある程度のアルパインルートは対応できる。と言う金井代表の話に促されて、実は 2018 年 5 月にも訪れていましたが、この時は事故を起こし敗退。その時以来のリベンジマッチとなりました。今回余裕は全くありませんでしたが、自分や奥田の成長が確かに感じられる、心に残る山行となりました。来年は悪沢にもチャレンジしてみたいと思います。



奥田君、ナイスガッツでした！